咳反射及び咳衝動における加齢の影響の検討

桂沛君[1)]，　海老原孝枝[2)]，　金﨑雅史[1)]，　柏崎尚大[1)]，　伊藤久美子[1)]，　山崎都[2)]，
上月正博[1)]，　海老原覚[1)]
東北大学大学院医学系研究科　内部障害学分野[1)]
東北大学加齢医学研究所　老年医学分野[2)]

【背景】咳衝動における加齢の影響はこれまで十分に明らかにされてこなかった。本研究において、咳反射感受性と咳衝動における加齢の影響を検討することを目的とする。

【方法】健常非喫煙若年の女性14人と高齢女性12人に対して、咳反射と咳衝動を測定した。咳反射は2回及び5回咳が誘発されたクエン酸濃度(C_2及びC_5)を測定し、咳衝動は吸入したクエン酸濃度に対するボルグスケール値により評価した。

【結果】咳反射閾値はC_2においてもC_5においても両群に有意差を認めなかった。一方、高齢女性群では咳衝動の勾配、C_2、C_5での咳衝動ボルグスケール値は有意に低下していた。しかし、咳衝動の閾値においては両者に有意差がなかった。

【結語】本研究により、高齢者において、咳反射の変化を伴わず、咳衝動が低下していたことを明らかにした。臨床的に、高齢者診療の場で、呼吸器感染症の初期症状を早期に把握するために、客観的に咳をモニタリングすることが重要と思われる。